

教育プログラム・コースの概要

大学名等	近畿大学大学院医学系研究科						
教育プログラム・コース名	がん緩和医療専門医養成コース						
対象職種・分野	医学研究科医学系専攻大学院生						
修業年限(期間)	4年						
養成すべき人材像	治療医による緩和ケアが普及する中、それらで対処が困難なサバイバーの疼痛や難治性疼痛に対応するための幅広い技術に習熟し、また、将来、大学内および地域の中核的施設で、地域連携や多職種連携チーム医療の中心的人物となり、関係者への教育・啓蒙を担っていけるような人材を養成する。						
修了要件・履修方法	原則として4年間のうち前半2年間で必修科目24単位以上と選択科目6単位以上、合計30単位以上を取得する。後半の2年間は大学担当教員の指導のもとに専門領域の研究に従事し、論文を作成して、最終試験に合格すること。						
履修科目等	<p><必修科目> 腫瘍学Ⅰ 基盤講義(医療現場・学際領域)・腫瘍学Ⅱ 横断講義(予防・研究開発)(各2単位)、がん緩和医療演習Ⅰ・Ⅱ(各1単位)、職種横断的ケーススタディ演習(1単位)、SPを用いた職種横断的臨床課題演習(1単位)、緩和医療学実習Ⅰ(6単位)、腫瘍内科学実習(8単位)、がん緩和臨床研究計画演習(2単位)、がん医療地域連携演習(1単位)</p> <p><選択科目> 分子腫瘍学(2単位)、がん薬物治療学(2単位)、サイコオンコロジー(2単位)、腫瘍内科学特論(2単位)、緩和医療学演習Ⅰ(身体)・Ⅱ(精神)(各4単位)、緩和医療学実習Ⅱ(6単位)、緩和医療学教育実習(6単位)、腫瘍内科学実習Ⅱ(6単位)、血液腫瘍学実習(4単位)、放射線腫瘍学実習(4単位)</p>						
がんに関する専門資格との連携	緩和ケア専門医(日本緩和医療学会)の研修施設として認定。						
教育内容の特色等(新規性・独創性等)	基本的な腫瘍学・緩和医療学の知識、技術の習得に加えて、非がんの難治性疼痛を診療する麻酔科医や心療内科医、公認心理師との協働をするなかで集学的な疼痛治療について学ぶ場を用意する。また、サバイバーから終末期までがん医療のフェーズを踏まえた、多職種連携チーム医療や地域連携を念頭においた教育を推進していく。						
指導体制	近畿大学医学部腫瘍内科、緩和ケアセンター、放射線腫瘍科、血液内科学の教授・准教授が教官として各専門分野の講義、演習、実習を行うとともに、各領域間の連携を取りながら、包括的な指導を行なう。また、上記の教育内容の達成のために、基礎教室(ゲノム教室)、小児科、麻酔科など関連領域からの教官の招聘あるいは学生の実習での出向や、地域連携のために外部機関との相互交流を図りながら指導していく。						
修了者の進路キャリアパス	医学博士号と緩和医療専門医資格の両者を取得し、大学内および地域の中核的関連施設で、緩和医療の実践と研究および教育・啓蒙の中心的人物として活動していく。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
		1	1	1	1	1	5
受入(養成)目標人数設定の考え方・根拠	現在大阪府内の緩和医療専門医は23名であり、年0~2名が新たに取得している。そのため、コンスタントに1名以上の専門医を養成することを目指す。過去の大学院志願者数及び入学ニーズ調査からも毎年度1人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を1人と設定。						